

キャリア発達ステージ (経験年数のめやす)		ステージⅠ (1年～2年)	ステージⅡ (3年～4年)	ステージⅢ (5年～6年)	ステージⅣ (7年～)
キャリア発達の課題		組織へのコミットメントとリハ看護師としての展望	組織間コミュニケーションとリハ看護師としての自己効力感	組織におけるリーダーシップとリハ看護師としてのやりがい	組織マネジメントとリハ看護を通しての社会活動
期待される能力	主な構成要素	指導を受けてリハ看護が実践できる	リハ看護が実践できる	リハ看護の指導ができる	リハ看護・組織のマネジメントができる
看護実践能力	対象理解・アセスメント<身体・心理・社会的><疾患別・経過別><家族理解と支援> 病態生理と診断、急性期合併症の予防 重篤化回避モニタリング、各期の運動支援 安全管理(危機管理) 不活発(廃用)症候群の予防 生活(再)構築の支援 回復支援ケアマネジメント 早期離床と基本動作支援 ADL拡大・自立への支援 各障害の回復支援、社会復帰への支援 主体性回復と家族支援、再発予防・健康管理 災害対策、退院支援と地域連携構築 社会資源の活用・ネットワーク	1 疾患・障害を理解できる。 2 基準・手順に沿って安全な看護が実践できる。 3 日常生活活動の評価と自立への援助ができる。 4 倫理的配慮をもって対象の理解・アセスメント・対応ができる。 5 医療安全・感染予防・災害対策の基本的な実践ができる。 6 家族の理解と支援ができる。	1 個別性をふまえた全人的なアセスメントができる。 2 対象のQOL向上をめざした看護が実践できる。 3 重篤化回避のモニタリング・合併症予防ができる。 4 急変時の看護が実践できる。 5 早期離床・回復支援のリハ看護が実践できる。 6 各障害に応じたリハ看護が実践できる。 7 退院支援・社会資源の活用ができる。 8 多職種と連携した活動ができる。	1 リハ看護の実践モデルとなり指導的役割ができる。 2 倫理的および医療安全上の諸問題に対応できる。 3 退院支援・地域連携構築に向けて主体的な役割ができる。	1 各病期における卓越したリハ看護の実践と質向上・専門性を高める活動ができる。 2 リハ看護の教育・普及のための社会活動ができる。 3 医療動向をふまえ、看護管理、医療安全・感染管理ができる。
・リマ ・ネ ・ダ ・ジ ・メ ・シ ・ン ・ト ・プ 能 力 力	多職種との協働・連携推進 チーム活動とリーダーシップ リーダーシップ論 グループマネジメント 情報管理 回復支援のケアマネジメント	1 社会人としての自覚をもち、報告・連絡・相談ができる。 2 組織の理念・方針を理解し、組織の一員として責任ある行動ができる。 3 看護チームにおけるメンバーの役割を理解し、行動できる。 4 リハチーム(多職種)の役割を理解し、連携できる。	1 看護チームにおけるリーダーの役割ができる。 2 多職種との協働・連携に主体的な関わりができる。 3 回復支援のケアマネジメントができる。 4 資源(人・物・金・情報等)の有効活用ができる。	1 看護単位の業務改善に取り組むことができる。 2 トラブルに関して論理的・道徳的な見解をもって対処できる。 3 看護単位の目標達成に向けて主体的に行動できる。 4 社会の変化や医療情勢に関心をもって情報収集ができる。	1 保健・医療・福祉の動向をとらえ、社会のニーズに応えられる看護が実践できる。 2 看護部門の委員会活動を運営できる。 3 組織および看護部門の理念・目標の達成に向けて、リーダーシップ・マネジメント力を発揮できる。
研究能力	看護研究の意義・目的・方法 文献検索・講読(クリティーク) 論文作成 プレゼンテーション	1 日々の看護実践を振り返り、疑問解明や課題の明確化に取り組むことができる。 2 研究の基礎知識を学び、文献活用ができる。	1 自己の課題を明確にし、研究的視点で継続的に取り組むことができる。 2 研究のプロセスを踏み、研究テーマを探索できる。	1 自己の研究課題に取り組むと共に、チーム研究における後輩指導ができる。 2 効果的なプレゼンテーションができる。 3 学会発表や論文投稿ができる。	1 自らがめざす領域・分野の明確化と研究的取組みを継続できる。 2 スタッフの研究能力向上を支援し、組織的に研究活動を推進できる。
支援指導能力	臨床のモデル看護実践 <疾患・障害特性> <急性・回復・維持・終末期> <病院・施設・在宅・地域> 教育・啓蒙とリーダーシップ 相談・指導 看護の質向上活動 教育心理	1 看護実践における疑問・不確かな知識・技術を明確にできる 2 インフォームド・コンセントの必要性を理解し、実践できる 3 対象が自己決定できる支援について理解できる	1 プリセプターの役割ができる。 2 後輩や学生に対して看護実践の指導ができる。 3 対象が自己決定できるよう支援する。	1 看護単位の教育を企画・運営できる。 2 院内研修会の講師を担うことができる。 3 臨床実習指導者の役割ができる。	1 看護部門の教育を企画・運営・評価できる。 2 目標管理における支援・指導ができる。
対人関係能力	コミュニケーションスキル 退院支援と地域連携構築 社会資源の活用・ネットワーク 交渉力	1 個人の尊厳やプライバシー・尊重(倫理的配慮)した対象理解ができる 2 自分の考えを他者に伝えることができる 3 他者の意見や考えを尊重できる 4 リハチーム(多職種)とのコミュニケーションがとれる	1 倫理的感性を高め、対象への共感的理解と対応ができる。 2 チーム内の人間関係の調整ができる。	1 患者の権利擁護者としてのコミュニケーションスキルを発揮できる。 2 患者・家族との信頼関係を築き、倫理的問題に対応できる。 3 退院支援を通して、地域関係者と積極的に関ることがができる。	1 スタッフのコミュニケーション能力育成の風土作りができる。 2 地域連携を推進する人間関係の調整ができる。
自己啓発	学会 研修会参加 自己到達度【クリニカルラダー】 ポートフォリオ 目標管理	1 看護部門・看護単位の教育計画に沿って学習できる 2 問題意識をもち 自己の学習課題を明確にできる	1 院内外の教育プログラムから自己の課題・関心に沿って選択し、自発的に研修参加ができる。 2 自己の学習課題について、学習計画を立案・実践・評価できる。 3 目標管理について理解し、自己の役割を実践できる。	1 自己のめざす方向性・看護観の確立に向けて、継続的に院内外の教育活動や学会に参加できる。 2 学習成果を後輩・同僚に伝達すると共に、看護実践に活用できる。 3 看護の発展・開発・工夫に向けて取り組むことができる。	1 専門領域の看護実践能力の維持向上と、自己のキャリア発達の継続的な取組みができる。 2 社会の変化や保健・医療・福祉の動向をとらえ、看護政策ならびに組織運営に反映できる。

*キャリア発達ステージは、経年的ステージではなくキャリアの発達ステージである